

# 山 王

題字 柳居俊学

令和 7 年 7 月

第 69 号

発行 周防大島町佐連自治会

発行代表 西村隼人

TEL/FAX 0820-78-1548

編集長 桑原市蔵

TEL 0820-78-1468

印刷 (有)日良居タイムス

令和 7 年 6 月撮影




地家室アワサンゴトンネル工事も順調

令和7年度 自治会役員名簿											
役 職	役割	氏 名	担当・その他								
自治会長	総 括	西村隼人	会館長 シニアクラブ会長								
副会長	総 務	榮 大吾	第3班長・白木半島コミュ ニティ協議会事務局								
一般会計	書 記	桑原市蔵	一般会計・民生委員								
第二会計	会館会計	宮崎 洋	神社会計								
防災関係	4 班長	山本英樹	防災避難関係								
宮 総 代	2 班長	山本章治	日吉神社								
福祉部長	1 班長	山本章造	福祉関係								
環境関係	5 班長	岩崎兼夫	港湾海岸								
行政連絡員		(東)北本美貴 (中)浜田ヤスコ (西)西村綾子									
各種団体役員、クラブ・サロン世話人											
佐連消防分団長	榮 大吾	なかよし会	浜田ヤスコ								
農事組合	桑原市蔵	ピンポンクラブ	木村節子								
漁業組合	山本章治	カラオケクラブ	西村隼人								

表紙	写真	西村隼人自治会長
20	佐連の風景	藤本 正明
19	自治会長挨拶・佐連の人口推移	
18	自治会役員・各種団体役員名簿	
16	各種団体役員、クラブ・サロン世話人	
16	熱意をもって	
15	風が吹きはじめた	
14	素晴らしい佐連の暮らし	
13	島での子育て&とにかく感謝の気持ちで溢れている話	
12	ちよつと昔の佐連の行事(写真)	
11	故郷く賑やかな里山の再生を目指して	木村 庄吉
10	佐連・沖家室・地家室の子どもの頃の遊び	
9	佐連・沖家室・地家室の子どもの頃の遊び	
8	佐連のクラブ紹介(ピンポンクラブ・なかよし会)	
7	私の趣味・作品紹介(バードカービング)	
6	佐連でのみかん作り	
5	佐連で収集したイワシ網関係の道具	
4	戦後のイワシ漁	
3	佐連山(和佐山)の開墾の話	
2	亥の子祭りの思い出	
1	生業を持って、生涯現役で生きていく	
0	御寄付御礼	
	山王誌を担当して	
	あとがき	
	ニホンアワサングの生息する豊かな海を守る	

### 令和七年度の佐連自治会



自治会長  
西村 隼人

令和七年度が始まりました。今年度も引き続き佐連自治会長の役を続けることになりました。

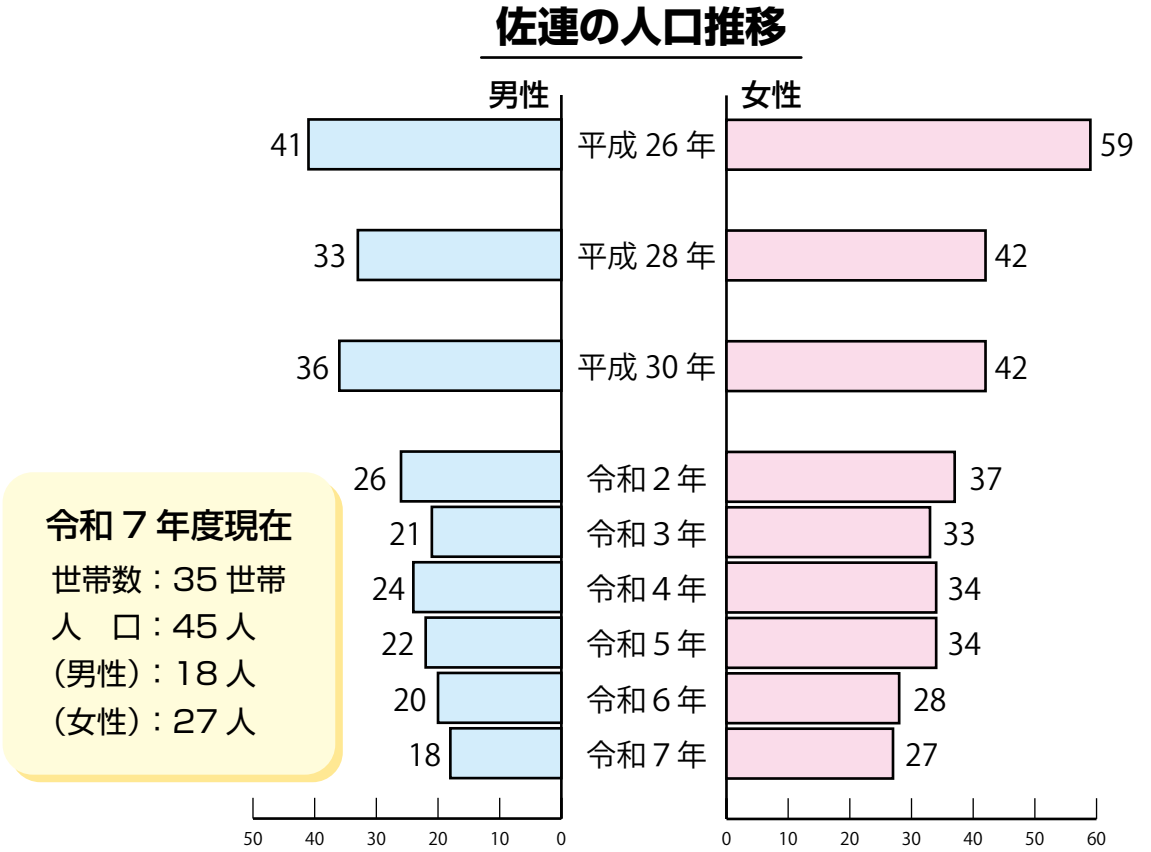
現在佐連地区は高齢化が進み、空き家が多く淋しい故郷です。コロナウイルス感染で、年間の行事も縮小されました。コロナが追い打ちになりましたが、一年の行事は少人員で行っています。

神社・墓地の清掃作業は自治会とシニアクラブで、年間四〜五回作業をしています。

河川清掃は六月に、海岸清掃は七月、八月のお盆行事、九月の敬老の日は各種団体で、十月は日吉神社の秋祭り、その他亥の子・避難訓練など外にもありますが、少ない人員で協力しあって行っています。

野山は荒れてしまい、おいしいみかんも作る者が無く、農家も数少ない人になり、港の漁船も十隻あまりに減っていました。皆様と一体となって頑張っています。

出郷者の皆様、ご協力をお願いします。





## 熱意をもって



山口県議会議長  
柳 居 俊 学

### 六十七代県議会議長に

向夏の候となりました。皆様にはお健やかにすごしのことと存じます。

今年五月、山口県議会臨時会におきまして、歴史と伝統ある山口県議会の第六十七代議長に選任をいただきました。

これもひとえに後援会はじめ皆様の長年にわたるご指導とご支援の賜です。

思いおこせば、私が三十一歳で東和町の町長選挙に立候補した時、佐連の皆様にごぞつてご支援をいただき、その熱いご支援のもと厳しい選挙戦を勝ち抜いてきたこと、昨日のように覚えています。以来変わらぬご支援をいただき、心より感謝と御礼申し上げます次第です。

### 拠点施設と

#### キャンプ場オープン

これまで皆様と共に力を合わせて、様々な課題に取り組んで参りました。

ここ白木半島でも新しい動きが始まっています。二〇一七年、白木半島地区コミュニティ協議会が発足となり、「夢プラン」が策定され、新たな地域づくりが始まりました。

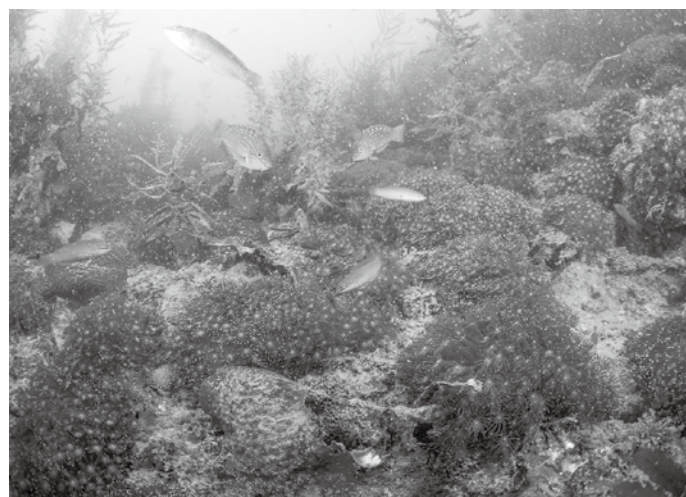
昨年は「地家室園地拠点施設」が地蔵小学校跡地に、一昨年には沖家室中学校グラウンド跡地に「沖家室シーサイドキャンプ場」がそれぞれオープンしました。

「拠点施設」は、ニホンアワサングの保全活動や自然体験の拠点、都市と地方の交流の拠点、さらに地球の自然・歴史・文化・暮らしを学ぶ場として環境省と周防大島町が整備したものです。沖家室の「キャンプ場」は、癒やし・交流の場・自然を体験する場としてオープンし、多くの人々に喜ばれています。

### 自然・歴史・文化と暮らしを大切に

白木半島をつなぐ主要県道橘東和線の整備も進み、四年前「佐連アワサングトンネル」が開通し、続いて「地家室アワサングトンネル」も来年開通の予定です。また沖家室大橋長寿命化修繕計画も順調に進んでいます。次々にこの地域の貴重な資源である自然・歴史・文化と暮らしを活かす試みが、始まっています。これも佐連の皆様、白木半島の皆様、古里を想う熱意が、関係者を動かし、町や県・国を動かして、これらの事業が前進したのだと思います。

私もこれから皆様と共に、力を合わせていろんな課題に取り組んで参ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。



▲ アワサングの生息する豊かなふるさとの海…

## 風が吹きはじめた



白木半島地区コミュニティ協議会 会長  
新 山 玄 雄

### キャンプ場と拠点施設

白木半島地区コミュニティ協議会が発足されて今年で八年目を迎えました。

当初、集まった皆さんと共に「夢プラン」を策定し、力を合わせて、いろんな課題に取り組んで参りました。

そのプランの中に、白木半島の暮らしと自然・文化・歴史を体験し、学び、交流できる施設として「キャンプ場」と「拠点施設」の建設が計画されていました。そして今、その夢プランが、関係者皆様のご尽力で「沖家室シーサイドキャンプ場」と「地家室園地拠点施設」として現実のものとなりました。「キャンプ場」は、片添ヶ浜オートキャンプ場の奥座敷として、静かで、美しい環境が多くの人々に喜ばれています。利用者によるトラブルもなく、リピートでご利用いただく

方も多く、中にはYouTubeで沖家室の動画を投稿されている方もいらっしゃいます。

「キャンプ場」内にある「島の直売所」では、地元の方々の商品を販売しており、特に三百円という格安価格で販売している薪が、多くのお客様から好評だそうです。

「拠点施設」では、昨年一月十九日の開所以来、多くの来館者（今年三月で一三、〇〇〇人を超える）がありました。環境省側施設も地域活動・環境学習など教育関連のイベント、映画会、講演会、フォーラム、各種会議など多くの方々に利用されています。

管理人さんによる「竹炭づくり」や竹を使ったバウムクーヘン作りなど挑戦されており、楽しい学びが目白押しです。

ニホンアワサングの保全、調査につきましても各グループにより積極的に取り組んでいただいております。「拠点施設」を軸に体験・学び・交流の輪が広がっています。

### 再 起 動

白木半島においても、コロナ禍で制限されていた地域活動がやっと再起動するようになりました。

例えば、各自自治会での「盆踊り」、「祭り」、「敬老会」、「亥の子祭り」などの復活。小積地区の「管絃祭」や「地引網」。沖家室のお盆の「万

灯会」やふか地蔵祭りの「放生会」や「カラオケ大会」など中止、縮小されていた行事が再起動され、活気が戻ってきました。

また二月には、「山口県東部海域にエコツーリズムを推進する会」の皆さんが、「拠点施設」のある地蔵ヶ浦に、ニホンズイセエビ二万本を植え、同会主催の「水仙まつり」が、にぎやかに開催されました。

さらに今年に入り、地家室の「石風呂伝承会」の皆さんによって「石風呂の入浴体験」も何度か行われて、好評です。

これらは一例ですが、多くの皆さんがこの白木半島を舞台として、様々な活動の取り組みが始まっています。その地道な活動を通じて、お互いが連携し、信頼し、力を合わせて参りたいと思います。

いつも申し上げるのですが、この白木半島には、ニホンアワサングが群生する「奇跡の海」があり、古来より海上交通の要衝としての歴史・文化・暮らしが残っています。この貴重な資源、財産にいま一度、目を向けて参りたいと思います。

人口減少・高齢化のただ中にある白木半島ですが、ここに暮らす私たちが、共に力を合わせ、心を合わせて諸々の課題に取り組んでいけば、必ず道は開けると信じています。



## ②不妊治療に助成・サポートあり。

ウチはもう気づけば今年で結婚 10 周年。なかなか授からずほぼ諦めていました。移住直後に不妊治療の助成を活用させていただきました。結果、不妊治療では授からずだったものの、子どもを諦めて夫婦で島暮らしを謳歌しようとした矢先にストン ...

「子供さんは？」みたいなよくありがちなプレッシャー、島に来てからというもの拍子抜けするくらい一切なく、優しく包み込んでくれるような有形無形の支えがあったように思います。



## ③産後ケアがすごい。

帝王切開で出産後、「産後ケア事業」で嫁子 1 週間入院を延長していただき、2 週間検診まで妻は病院で過ごすことができました。なんと手厚い ... そして、出産後にはヘルパーさん 2 時間を 30 回お願いできるという ... 材料は畑に山とあるし海藻も売るほどあるけど食事の作り置きをサポートいただけるのが本当に本当にありがたいです ...

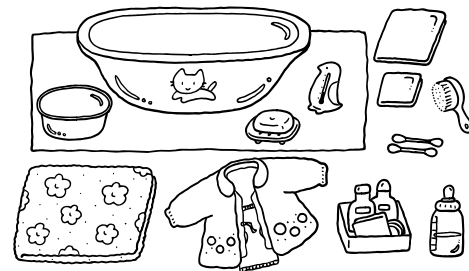
ただでさえ目の回りそうなスケジュールのひじきの漁期中に、何とかあったのはこのおかげです。



## ④子育てグッズが集結。

ほぼ全ての子育てに関するグッズがいつのまにか家に集結している。ベビーベッド、哺乳瓶、ベビーバス、チャイルドシート複数個、その他あらゆるものが ...。買ったものといえば、消耗品系と、哺乳瓶スチーマー、乳児期から使えるチャイルドシートくらい ... ? もらい物全部買っていたらと思うとゾッとします ...。ありがとうございます。

そして色々聞きやすい自営業の子育て世代の先輩父さん母さんの存在のありがたさが沁みました。



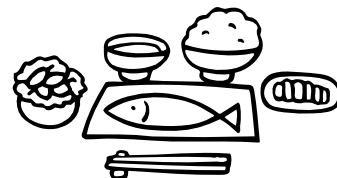
## ⑤尋常じゃない量の有形無形のお祝い。

内祝い、お返しを準備するのに名簿を作らねばならぬレベルで、あらゆる人からお祝いをいただきました。なんと自治会からも（その後自治会や消防、公民館にこちらからもご寄付させていただきました）。

先輩方がとっても嬉しそうに声をかけてくれるだけでもありがたいのに、どうしよう、というくらい祝っていただいています。とても温かい気持ちになっています。

## ⑥ご近所や親分に助けていただいています。

妻の妊娠中、毎晩のようにご近所からオカズが届く。毎週漬物が届く。何かと気にかけてもらって本当に心強かったです。とっても助かりました。



## 素晴らしい佐連の暮らし

榮 大 吾

## 島での子育て&amp;とにかく感謝の気持ちで溢れている話



2025 年の 3 月末に息子・春吾（しゅんご）が産まれました。母子共に元気に、毎日榮家はてんやわんやですが、さらに彩り豊かな日常になりました。はやいもので夫婦で周防大島町に移住して 2025 年で 8 年目突入です。

実は今年で結婚 10 年目。不妊治療も経て夫婦 2 人で生きていこうと子供は諦めたところに授かりました。周防大島の皆さんには、出産育児の制度面でも、それ以外でも「こんなに良くして頂いていいんですか？」と思うことばかりで、あらゆる人や制度に助けていただくことばかりです。

特に、出産育児の制度面ではきっといろんな方の並々ならぬご尽力があって今があるのだろう、と思いつつ、どこかで回り回ってそういう方に感謝の念が届けば良いなど発信します。決して大袈裟なことではなく島の先輩方、そして全ての納税者の方々に感謝したいです。

## ①比較的通いやすい近隣地方都市に産科がある病院（周東病院）が残っていたこと。

島の中に産科はないものの、橋を渡って 20 分ほどでとても頼れる産科の先生がいる病院があります。どうやらその病院も産科がなくなりかけたことがあったらしいですが、先人たちのおかげで大病院から女医さんが 2 人派遣されることになったとのこと。来てくれてありがとう、残してくれてありがとう。多分色んな人の尽力があったんだと思います。

妊婦健診が 14 回全て無償、かつ「一度決済して後から給付」ではなく検診後「そのままお帰りいただいて大丈夫です」というのもすごいなど ...。



## ちょっと昔の佐連の行事 ～ 2017 年の山王誌より～



語ろう会旅行

消防団出初め式



お盆（精霊舟送り）



お盆（盆踊り）



敬老会



山王秋祭り



忘年会



特に思い出に残っているのがメンチカツとグラタン、そしてたくあん。美味かったし沁みました。

そして妻の里帰り中の 1 ヶ月はほぼ毎日ひじきの師匠の家か、ご近所の先輩の家で夕食をご馳走になりました。もうどうやって恩返ししようかしら、と感謝の気持ちが溢れています。

### ⑦産まれてからというもの、ご近所の方々があたたかく見守ってくれていることが伝わってくる。

首が座るまではね...と自分たちも大変だったから、と、たくさん温かい言葉をかけていただいたり、そっと見守ってくださっています。これは島の中でも今住んでいる集落の先輩方に特別人徳に厚い方が多いからなのかもしれないと思っています。

しょっちゅう家に人が訪ねてきていたのですが、ここ最近、寝不足の両親と赤子が寝ているのを気を遣っていただいています。でも道端でお会いするととっても親切に声をかけてもらえて心が温まり、寝られない日々でもとても元気がでます。

夏以降首が座ったらたくさんの方にまた訪ねてきていただきたいですし、ハイハイしたり歩き始めたら、ぜひたくさん遊んでいただけたら嬉しいです！

うちの春吾も、もう少し大きくなったらおそろくあちこちに遊びに行かせていただくと嬉しいです！（親に似ていたずら小僧になると思います）

### ⑧近所に頼れるかかりつけ医の先輩

乳児湿疹がひどくなりかけたので、車で 10 分のかかりつけ医（しかも息子と同級生になるであろうお子さんがいらっしゃる）のところに車を走らせる。なんと心強い....。

医療費は高校生まで無料である。会計時に「え!? お金かからないんですか?!」と新米父母ムーブをかまして周囲からにこやかにからかわれる。

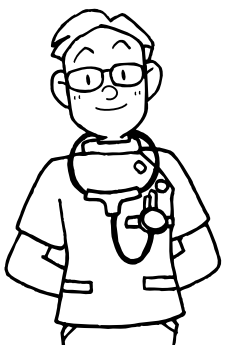
小児科は島外に出ないと存在しないのと、入院となるとさらに遠くなり片道 2 時間はかかってしまう現実がありますが、心理的に距離の近い医療者がいてくれる心強さたるや....。

総じて、こんな素敵な島・集落に産まれる息子はそれだけで幸せ者だと言い切れます。

これから先、いろんな困難が待ち受けていると思いますが、楽しく壁を乗り越えていこうと思います。医療機関や検診で「頼れる人はいますか?」と何度も聞かれましたが、自信を持って「います」と答えられる幸せをかみしめています。今後とも親子共々、よろしくお願い致します!!



▲ 玄関に伝言ボードを作っています





時を同じくして、白木半島は「二ホンアワサンゴ群生地」として2013年海域公園に指定され、更にそれを育んだ「白木山麓」の陸域が2016年に国立公園第2種特別地域に編入されました。それに伴い、山口県の【中山間地域を元気に！「やまぐち元気生活圏」づくり】の取り組みの一環として白木半島六地区が指定され、「白木半島コミュニティ協議会」が2017年に発足しました。協議会は環境省指導の「エコツーリズムの理念」(自然環境の保全、観光振興、地域振興、環境教育)を指針とした地域づくり「夢プラン」を熟考を重ね策定しました。プランの中心で主目標であった「地家室園地拠点施設」や「沖家室キャンプ場」が完成し、活動拠点と周辺環境が整い私達の活動が白木半島コミュニティの方達と協同して貢献でき、親交できるように喜んでいきます。

こうして、地域の活性化を目指してきましたが、一般的に地域の活性化は産業をおこし、定住者を増やすことだと言われています、このことを行うには行政や有識者でなければ難しく、「地域活性化養成塾」講座では、一般住民としての取り組みは農山村再生に向け



て「環境的・人間関係の価値」などを上乗せし「賑やかな過疎」「輝いている前向きな人の地域」を目指し、高齢・過疎化、地方消滅など後ろ向きの言葉に惑わされず、「傍観からの脱却」をすべきと言われています。こうした教えに従い、故郷が「傍観せずに、賑やかに前向きに輝く」ために、少しでも力になれるように取り組んでいきたいと思っています。

## 佐連・沖家室・地家室地区の 子どもの頃の遊び

他にも楽しい遊びがありました

カルタとり

コマ回し

外入風月堂の  
アイスクャンディー

竹馬

メンコ

きせかえ人形

ケンケンパ

## 「故郷 ～賑やかな里山の 再生を目指して」

外入在住 木村庄吉



外入地区の里山再生を目的としたグループ「花の咲く夕日の里づくりの会」の活動状況について述べさせていただきます。

私は「高校卒業後、大島を出て42年間会社勤め後、故郷に帰りましたが集落は放棄地が増え、雑木で瀬戸内の景観は見渡せない状態になっていました。過疎化が進み、田畑は荒れた場所が増えていました。この状態を見ていざこれ集落も衰退する運命になるのではないかと危惧されました。

沢山いた集落の同年代も故郷に戻る人も少なく、まして、大島を出て働いた我々年代の子供達はこの地に戻ってくることは望めません。従ってここで生まれ育った私達が故郷の里山を再生し歴史と自然の素晴らしさを後世に伝えることが大切と思うようになりました。



それには、荒れた遊休地を開墾し桜等の花木を植えれば自分達が高齢になっても、花木は成長し後世にはその花を見るために多くの方がこの地を訪れ、「賑やかな過疎地」になるのではないかと思います。

又、大島は宝の山と言われ、旧跡、景勝地など多くの方に紹介できる自然と歴史があります。そうした宝もれている宝を世に出すべきだと思うようになり、2014年に賛同者約30名で「花の会」を結成し活動を始めました。

活動は歴史や自然を見直すことから始め、地家室へ外入の生活道だった往還道を整備すると共に峠周辺に夕日と瀬戸内の景勝が素晴らしく、日本夕日百選に匹敵する「夕日の丘展望台」を設置し、多くの方が訪れるようになりしました

その他に旧城山小学校跡(現東和病院)から望める城山(島末城跡)の登山道、山頂整備、白木山尾根登山道の整備等、歴史の里や先人



達の歩いた道を再生しハイキング等を行い、町内外の多くの方にこの地を知ってもらいました。

又、旧跡、磯兼屋敷跡に旅する蝶「アサギマダラ」の飛来を促進した結果、10月には4千人近い町内外の観覧客が訪れるアサギマダラ園になりました。

その他、地元の史跡である「津波到達碑」・「五勇士慰霊の塔」・「磯兼屋敷跡」・「往還道」・「城山」等七か所に案内・説明板を設置して訪れる方に歴史を知ってもらえるようにしました。



最初に借りした久賀の家の庭にもみかんの木があり、「本当にみかんが生活のすぐそばにある島なんだ」と実感しました。その後住まいを探していた時期に、偶然出会ったみかん農家さんご縁があり、お手伝いを始

東京からの移住体験を経て、沖家室島に越してきた牧野と申します。

この町に住んで、今年で3年が経ちました。もともと「海のそばで暮らしたい」と思って移住してきたのですが、気がつけばみかんの木を育てるようになっていました。

初めて大島を訪れたのは、ちょうどみかんの収穫シーズン。車を走らせながら見た、緑の葉っぱとみかんのオレンジ色がとてもきれいで、今でも鮮明に覚えています。

今年、自宅の庭で育てているみかんやレモンの苗も

めることに。

農作業は全くの未経験でしたが、実際にやってみるととても楽しく、「知識を身につけて、きちんとお手伝いできるようにしたい」と思い、農協の営農塾にも通い始めました。

沖家室に移ってからは、榮さんの紹介で佐連にある桑原市蔵さんの畑をお借りし、一緒にみかん作りに取り組んでいます。まだまだ他の農家さんのようには動けませんが、自分のペースで少しずつ、お世話する木の本数を増やしていきたいと思っています。



## 佐連でのみかん作り

牧野啓彦



## なかよし会

会員も少なくなりましたが、毎月の会合を楽しみにしています。



## ピンポンクラブ

ピンポンする人も少なくなりました。平均年齢86歳です。頑張っております。

## 佐連のクラブ紹介

## 私の趣味・作品紹介 バードカービング 山本幸造

佐連に移住して7年目、2年前に「わが趣味」のお題でバードカービングを紹介させて頂いた山本幸造です。現在、2,000 kmを旅するアサギマダラ(蝶々)の誘致活動を中心に、外入から地家室間を花咲く夕日の丘にするために、ボランティア仲間と足腰痛いと言いながらサクラやモミジの植林や下草刈りなど楽しく遊んでいます。

さて、バードカービングは約半世紀前にアメリカから伝わった木彫です。木彫ですから古代から日本でも作られていたのですが、何が違うかというと、如何に「リアル」に作るかです！形、大きさ、色、表情？などなどに拘り、実物に近く、正確性が求められるのです。

自分がバードカービングを始めて約30年になりますが、性格的に飽きっぽく、すぐ妥協してしまい、鳥の細部が手抜き作業になり雑になってしまいます。ナイフも使いますが、作業の大半は電動工具(グラインダーやバーニングペンなど)を使用します。定年前数年間は開店休業期間も長かったので錆びついたのか、久しぶりに電源入れても動かないこともあり、昔覚えた作業テクニックもすっかり忘れてしまいました。30年前、東京でカービング教室に通っていた頃の仲間は、日本だけでなく海外でもトップクラスのバードカーバー(野鳥彫刻家)になった人も居ますが、自分の技量は殆ど進歩していません。

現在、年1作を目標に我流でカービングしており、本年度もJBICA(日本バードカービング協会)主催コンクール(11月、千葉県我孫子市開催)に向けてトラツグミを作成しているところです。

また、昨年地家室の環境省地家室園地拠点施設に、我が愚作が数点常設(いつまで置かせ貰えるか?)されておりますので、周防大島に帰省された際にお立ち寄りされ、見て頂ければ幸いです。









1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回
5歳	15歳	25歳	35歳	45歳	55歳	65歳	75歳	85歳
10歳	20歳	30歳	40歳	50歳	60歳	70歳	80歳	90歳

30代などまだヒヨッコもひよっこ、準備体操とあらゆる土台である精神的・肉体的な筋肉づくりの時期だと思って気合を入れて頑張ります。

まだまだ人生前半戦！100歳すぎても現役バリバリで働くことが目標です。「働きすぎて身体を壊すなよ」とお叱りを受けることも増えたので、食生活に気を使ったり筋トレやストレッチはもちろん、今では毎月必ず島の

整体院に通って体のメンテナンスもしっかり行うようになりました。

**実は農業漁業は成長産業**

漁業も農業も「就業者数」だけで見ると激減しているのですが、一方で生産金額を見ると横ばいか、切り取る断面によっては伸びています。つまり、「1人あたりの生産金額」はグイグイ伸びていることに。大きなチャンスが若手生産者にはあると思っています。

これから日本は人口が大きく減ることで需要も減少するのですが、それを圧倒的に上回るスピードで供給の方が先に減っていくのでどちらかというと供給者側に立っていた方がこれから得をしやすい（生産したもののkg単価は上がりやすい）、というおまかな外部環境にあります。

事実、海のもの畑のものともに、単価は年々上がっていますし物価高の影響も同時に受ける

ものの恩恵も受けられるのが生産者の良いところだとも思います。

「漁業や農業で食っていくことはこれから難しいよ」と言われるような難しい環境であることもまた見方を変えれば事実ではあります。それはどの産業に身を置いても同じこと。自分の頑張り一つでどうにでもなりうるはずです。

そしてラッキーなことに海や山に詳しい師匠や先輩方が身近にいてくれる、これほど恵まれている中で結果を出せなければ何をやってもうまいかないと思います。

右も左も分からずに頑張っている「そうじゃないよ」「もつとこうする」といい「今からの季節は××だ」と教えてくださったり、時にちゃんと叱ってくださる人がいて、船やトラクターを譲ってくださる人がいて、土地を紹介してくれる人がいて、昔から漁師をしている腕の良い先輩が近所で何かと目をかけ



## 亥の子祭りの思い出

私が子供の頃（七十年前以上）十一月の亥の日に、小学生が中心となり各家を廻り、亥の子を搗いて、ろうそく代やお菓子を頂き、あとで六年生の先輩を中心に楽しく過ごしたことを今でも思い出します。

当時の亥の子祭りの準備として、半月前位に、まず山に葛（カズラ）を取りに行きます。カズラが乾燥して切れないように、海中に一週間つけて柔らかくして、亥の子石にむすび、中央に御幣を付けます。

当日六年生の力持ちが石を背中に担ぎ、皆が後について（佐連地区は東と西の二組）各家を廻りました。

現在は、佐連地区に子供が少なくなり、亥の子祭りは、秋の防災訓練の日に、日吉神社境内に集まり、大人で亥の子をつき、亥の子歌を歌い継いでいます。

佐連出身の皆様、子供の頃を思い出して下さい。

桑原市蔵記



日吉神社で亥の子と餅まき(平成28年11月)

## 生業を持って、生涯現役で生きていく

佐連 榮大吾



▲ 磯でひじきを収穫。大潮のタイミングで1日で1トン以上収穫することも。12月の漁期スタートとともに新芽のひじきを加工販売用に収穫し、その後5月までは漁協を通じて市場に安定供給するひじきをひたすら収穫・天日干ししています。

島で漁業（ひじき漁、一本釣り漁業）を師匠から教わりはじめてからはや7年目となり、家庭菜園だったのが毎年管理面積が増えてとうとう1町（1ha）になってしまった農業（にんにくをはじめ多品種）に精を出す毎日です。

島に移住して心から思うのが、周防大島の沖家室や佐連にて生涯現役で70代でも、80代でもバリバリ沖に出たり畑に出てる爺

またたちの背中には輝いているし自分もそうありたいなと…。自分のやりたい仕事を納得してやっている、ということ、本当に素敵でカッコいいと思います。

**人生は九回裏まである延長戦も…**

人生を野球で例えたら1回から9回まで、下手したら延長戦まである。50代までは前半戦



## 山王誌を担当して

(有)日良居タイムス 松井 香

山王読者の皆様、初めまして。私はこの山王誌を印刷している日良居タイムスの松井と申します。私が日良居タイムスに入社してからずっと「山王」を担当しております。最初の頃はまだ、故西村與一さん（初代編集長）が原稿を持って来社され、弊社の故田村徳雄会長とよく話をされていました。西村さんは「故郷と外で働く人を結ぶ新聞にする」という目的で、「山王」誌を編集されていて、実に先見の明を持たれた方だと感じました。山王誌が長く続くのも、このつないだ絆を切らない皆様方の努力の賜だと思わずにいられません。

西村さんが亡くなってから西村さんの弟稔さんが引き継がれ、その次は親戚筋になる中本悟さんが担当されました。その後は西村隼人さんをはじめ編集委員の方が原稿を持って来社され、写真と原稿の説明をしていただきます。昨年亡くなられた写真担当の浜田さんもそれまでは一緒に来社されて、すてきな写真をたくさん



平成24年発行30周年記念号

こり笑えるようなお話、懐かしいお話・写真など、お待ちしております。これからもよろしくお願いたします。

ん用意していただきました。心よりご冥福を申し上げます。山王誌は佐連のことだけでなく、読者様からの寄稿文には、外国のお話や子ども時代の楽しかった事、現在の趣味などこれまた盛りだくさんです。フルマラソンを走られたお話では、資料などもたくさん用意されて、全部は掲載できなかったのですが、いかに楽しかったか、写真や原稿からも伝わってきました。旧地蔵小学校や子ども時代のお話、どれも苦しかったことより楽しい思い出だけが伝わってきます。最近では移住してこれれた榮さんが、島での暮らしや生活を記事にされています。新しい『目』で、島の生活がどれほど豊か、改めて感じます。前回の餅まきの話も、地区の皆さんとのやりとりがとても楽しく感じました。来年のことを言うと鬼が笑うと申しますが、山王誌は来年70号を迎えます。につ

## あとがき

佐連の郷土誌「山王」は今年度で発刊四十年、六十九号となりました。愛読者の皆様の暖かいご支援の賜物と御礼申し上げます。

佐連地区も他の自治体と同様に少子高齢化が急速に進んでいます。従来通りお盆・秋祭り等の昔からの伝統行事は開催致しますので皆様の帰省をお待ち致します。

山王誌は郷土と出郷者との絆、情報交換の役割を果たせばと思っています。今後とも、皆様の故郷佐連に係る、思い出・近況報告・写真等の寄稿を頂けます様お願い致します。尚、皆様のお子様・お孫さん世代に山王誌を送付致したいと思いますので、ご連絡下さい。

### \*山王編集部\*

発行責任者	西村 隼人
編集長	桑 原 市 蔵
会 計	宮 崎 洋
編集委員	山 本 幸 造
白木半島コミュニティ協議会事務局	
集落支援員	榮 大 吾
編集委員(写真)	牧 野 啓 彦
集落支援員	濱 田 やス子
	濱 田 優 子
	桑 原 東 子
	木 村 節 子
	西 村 綾 子

## 御寄付御礼

皆様の温かいご厚情に、感謝申し上げます。山王誌の発行資金として活用させていただきます。

山王誌へのご寄付は下記の口座をご利用ください。

～～振込先～～

口座番号 普通 8753681

店 名 山口県農業協同組合東和支所

口座名 佐連便り（山王誌）



# ニホンアワサンゴの生息する豊かな海を守る

藤 本 正 明

「森は海の恋人」と言われるように、豊かな海を育んでいくためには陸を整備することが必要です。そこで、ニホンアワサンゴの生息する豊かな海を守るために NPO 法人自然と釣りのネットワークは 2016 年に地家室の竹林を伐採して「アベマキの森」づくりを、そして、山口県東部海域にエコツーリズムを推進する会は 2020 年地蔵小学校跡地横の耕作放棄地を整備して「水仙の里づくり」を始めました。

## 8 年前に植樹したアベマキの木 (2024.8.7撮影) ▶

かつてアベマキの森は耕作地でしたが、やがて放置され、そこには無数の孟宗竹が生えてその隙間は枯れた竹で塞がれ、中に踏み入ることはできませんでした。今ではほとんどの竹が伐採され、枯れた竹が取り除かれて、8 年前に植樹したアベマキの木が森を造っています。



## 水仙の里 (2025.2.27撮影) ▶

水仙の里は以前みかん園でしたが、みかんの栽培を止めて雑木林になっていました。今ではその雑木もすべてなくなり、そこは 1 ha10 段の水仙畑に変わり、今春は 25,000 本の水仙が花を咲かせ、訪れた人たちを喜ばせました。



## 園地サポーターによる 農道の清掃 (2025.2.15撮影) ▶

また、この冬には多くの園地サポーターや島内外の小学生がやって来て、水仙の里の上部にある農道を清掃しました。今後もこのような活動を続けて、みんなでニホンアワサンゴが生息する豊かな海を守っていききたいと思います。

